

■ 平成29年9月4日 南部・東部地域振興対策特別委員会県内調査

1 丹生バイパス（下市町）

【調査目的】丹生バイパスの現地調査

【調査概要】丹生バイパスの整備概要及び事業効果の説明を受ける。

<説明の概要>

- 一般国道309号は、三重県熊野市から大阪市を結ぶ延長146kmの道路で、うち奈良県域は、下北山村から御所市に至る77kmである。京奈和自動車道御所南インターチェンジと接続しており、県南部地域を縦断する幹線道路である。
- 南海トラフ地震等の大規模災害への対応や、緊急・へき地医療を支える「命の道」であるとともに、県南部地域の観光、産業の振興に大きく寄与する重要な道路と考えられている。
- 京奈和自動車道から天川村までの区間のうち、幅員が狭小ですれ違いが困難な未改良区間が4km残されていたことから、平成14年度に事業化し、平成23年4月に部分供用、平成28年8月に全線供用を開始。
- 丹生バイパスが完成したことにより、京奈和自動車道から天川村まで、全線2車線の改良された道路で繋がった。
- 丹生バイパスの概要
 - ・事業区間：吉野郡下市町丹生～下市町長谷
 - ・延長：2.4km
 - ・幅員：歩道設置区間9.75m、歩道未設置区間7.5m
 - ・主な構造物：丹生トンネル（570m）、長谷大橋（50m）
- 事業の効果
 - ・医療面では、南奈良総合医療センターまでの所要時間が5分短縮され、救えなかった命が救えるようになった。
 - ・黒滝村や天川村では、災害発生時における救援物資の迅速かつ円滑な輸送が可能になるなど、緊急輸送道路としての機能が強化された。
 - ・世界遺産に登録された大峰山や天川村の洞川温泉などの観光地へのアクセスが良くなり、入り込み客数が増加していると聞いている。
 - ・地元住民からは、観光シーズンの渋滞がなくなり大変喜んでいると聞き及んでいる。

○丹生バイパスを見学



2 川上村ふれあいセンター（川上村）

【調査目的】一般社団法人かわかみらいふの事業運営について

【調査概要】事業概要の説明を受け、ふれあいセンターを見学

<説明の概要>

- 川上村の現況は、人口は、1,313人。地理的な生活不便も相まって、都市部に住む子からの「呼び寄せ」による高齢者の転出が増加している。また、村内にスーパー、コンビニ等がなく、自動車で近隣へ買い物に行かなければならない。
- 車が運転できない高齢者は、食料品や日用品等の買い物に大きな不便と負担を感じているとともに、足腰が弱い高齢者が自宅に引きこもるケースが顕在化している。また、日中は高齢者のみとなることから、災害など日々の生活に不安を抱いている方も多く、村民が気軽に立ち寄れる場やコミュニケーションを形成する機会がないという課題もある。
- 課題の解決に向け、川上村らしい出向く行政と「小さな拠点」が必要でなはいかとの考えのもと、平成28年7月に村民主体の「一般社団法人かわかみらいふ」が設立された。
- 事業内容等

移動スーパー事業

- ・地元スーパーの吉野ストアと連携し、買い物利便を確保している。
- ・村内全域を巡回し、村民の約4割の方が利用している。

宅配事業

- ・ならコープと連携し、利用者の玄関先まで荷物を宅配し、声かけ等を実施して生活不安を解消している。

公営ガソリンスタンド事業

- ・高齢を理由に廃業した村内唯一のガソリンスタンドの事業を継業し、平成29年4月より指定管理者として事業を開始。
- ・村民や村内事業所の理解もあり、前経営者の時より同時期比の販売量が1.6倍に増加している。

上記3事業のほか、ふれあいセンターを拠点に、コミュニティカフェ、巡回診療、サークル活動支援、コミュニティース事業を実施している。

- かわかみらいふの事業は、村民の新たな雇用の場の創出と地域内経済循環の確立に寄与している。

○川上村ふれあいセンターを見学

